白山ふるさと文学賞

第十五回　白山市ジュニア文芸賞　受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年　作文の部　優秀賞

「努力〜プロサッカー選手になるために〜」

旭丘小学校六年　三枝（さいぐさ）　直央（なお）

ぼくの将来の夢は、「プロサッカー選手」になる事です。

ぼくは幼少期からサッカースクールに通っていましたが、本格的にチームに入団して、サッカーを習い始めたのは小学三年生の冬頃です。

ぼくには現在サッカーをしている高校二年生のいとこと、高校三年生までサッカーをしていた、大学二年生のいとこがいます。二人共、全国大会へ出場した経験があり、この二人の存在が「サッカーをしたい」「サッカーが上手くなりたい」というぼくの原動力になっています。

世界には一人一人、試合で戦っていくために必要な武器を持ったプロサッカー選手が無数います。人より大きな体格を持った優れた選手や、スピードのある、一対一の局面が得意な選手など、プレーに特徴があります。ちなみに、ぼくの武器は、正確無比なキックと精度の高いパスです。

しかし自分が得意なプレーだけをしているプロサッカー選手は、日本でも世界でも見たことがありません。どの選手もピッチ内で表現するプレーは様々で、万能です。それはプレーの判断にも影響して、一つのプレーしか頭に無い選手は、その時の状況がどんな場合でもそのプレーしか出来ません。けれど、複数のプレーを頭に入れている選手は、その時の状況に応じて、臨機応変に対応する事が出来ます。「判断」とは、プロサッカー選手の常識であり、当たり前の技術でもあります。また、考える力は判断するためにも大切です。ぼくは周りの情報をしっかり集めた段階で、「この状況の場面では、このプレーをしたら有効だな」と考える事をしています。

サッカーはミスするスポーツと、聞いた事があるのではないでしょうか。ぼくも、ミスを何回もした事があります。けれど、「ミスをしていい」という訳ではありません。一度起こったミスを何度も繰り返すのでは無く、そのミスを修正する必要があります。そのために「練習」があると考えています。パス、ドリブル、トラップ、シュートといった、サッカーの基本の技術をぼくは毎日練習して、「サッカーノート」に大事な事を記録しています。なぜ、サッカーノートに記録するかというと、一日の練習だけで、大事な事をやらなかったり、忘れてしまったりするからです。体では感覚を覚えていても、頭の中で、言語化した状態で覚えていないと、練習中に考えた事がもったいないと思っています。けれど、その考え方は人それぞれです。体で技術を覚える人もいれば、ぼくと同じように、言語化して頭の中を整理させて技術を覚える方がしっくりくると思う人もいるはずです。また、練習を継続するという事も大切な力だと思います。どんどん継続していくにつれ、感覚も勝手に身に付いてきているなとぼくは実感していますし、積み上げた練習は、技術を磨き、いずれ自分のためになると思っています。

サッカーはチームスポーツです。一人一人の得意なプレーは異なります。色々な選手が集まるからこそ、「コミュニケーション」は必須だと思います。

今年の夏休みに、それぞれ違うチームで活動している選手が集まり、台湾遠征へ行きました。最初の方は、プレーの意図を合わせる事が難しく、攻守両面で個人でプレーをする場面が多くあったけれど、試合を積み重ねていく内に、声かけが増え、ハーフタイムにチーム全体でやるべき事や今の現状を話したり、プレー中に味方への要求をしたり、チームとして戦うようになりました。コミュニケーションは大切だと改めて感じました。台湾遠征での経験を生かし、チームでもコミュニケーションを取る事を意識していきたいです。チームとして協力する事だけでは無く、チームメイトの存在は、闘争心を燃やしてくれる、自分にとっていい存在であると思います。

ぼくは、チーム以外にもサッカースクールに通っています。そこには、自分にアドバイスや色々な事を教えてくれる監督やコーチがいま

す。さらに、試合当日のお弁当を作ったり、試合の動画を撮ってくれたりする両親もいます。他にも、いつも応援してくれて、サッカーから家に帰った時に、優しく声をかけてくれる祖父母や、一緒にサッカーをしてくれるいとこ、チームやスクールの選手たちがいます。このようなたくさんの人たちのおかげで、自分が良い環境の中でサッカーが出来ているという事を忘れずに、いつも感謝の気持ちを持ちたいです。その気持ちを「ありがとう」という言葉にして、日頃から伝えるようにしています。

ぼくは将来的に入団したいチームがあります。なぜそのチームかというと、ユーチューブでそのチームの攻撃を見た時、「こんなスムーズにパスを回して、得点へ結び付けるんだ」と感激したからです。そのために、そのチームのサッカーについて詳しく知りたいと思います。そして、ピッチに自分が立てるくらいの実力を身に付けたいです。

その後、欧州のハイレベルなリーグのチームに所属して、自分の力が世界で通用するのかを試したいです。

おそらく最初は信用されないと思います。ぼくのサッカースクールのコーチは、海外へ行ってサッカーをしていた時、自分の思い通りにいかない事が多くて、大変だったそうです。ぼくも上手くいかない事があっても、何かしら修正して、活躍したいです。

そして日本代表として責任を持ち、ワールドカップの舞台に立って、優勝したいです。とにかく、ぼくの将来の夢は「プロサッカー選手」になる事です。

そのために一日一日を大切にして、目標へ向かって努力していきたいと思います。

